

令和3年度 秋田県健康づくり審議会 がん対策分科会
子宮がん部会 議事概要

- 1 日 時 令和4年1月19日（水）18時～19時30分
※オンライン開催（Z o o m）
- 2 委員の出席 出席委員数：9
欠席委員数：0
- 3 オブザーバー（検診機関）の出席：4
- 4 議 事
 - （1）報告事項
 - ・市町村における子宮がん検診実施状況について
 - （2）協議事項
 - ①秋田県の精度管理評価指導基準及び改善指導について
 - ②秋田県子宮頸がん検診実施要領の一部改正について
 - （3）その他

議 事 概 要

(開会宣言、健康づくり推進課長のあいさつに引き続き、議事を開始した。)

議事(1) 報告事項 市町村における子宮がん検診実施状況について

- 事務局 (資料1に基づき説明)
- 部会長 4ページの二次医療圏別死亡率について、人口当たりの死亡数が少なく、数字の比較が難しい。二次医療圏別のデータについては、もう少しまとめて分析しなければならない面もあると思う。
- 部会長 7ページのがん検診受診率(年齢階級別)について、他都道府県と比較して本県の特徴はあるか。
- 事務局 いまは情報を持ち合わせていない。
- 部会長 8ページの精密検査受診状況について、令和元年度速報の精検受診率は89.5%であり、これまでで最も高いのはよいと思う。がん発見率が0.009%と低いのはなぜか。
- 事務局 70歳以上でがんであった方が平成30年度は1名のみだったが、令和元年度は5名であったため、令和元年度のがん発見率(20～69歳)が低くなったと考えている。
- 部会長 9ページについて、令和元年度速報の精検受診率が低い4市町(由利本荘市、にかほ市、八郎潟町、美郷町)には頑張っていたいただきたいところがある。
- 部会長 13ページの無料クーポン券の利用率について、10%というのは全国的にみてどうなのか。
- 事務局 全国並みと認識している。
- 部会長 乳がんの無料クーポン券の利用率はどの程度か。
- 事務局 2～3割程度である。
- 部会長 無料クーポン券の有効利用について、意見はあるか。
- 事務局 無料クーポン券の対象者は20歳であり、住所を移さずに進学等をしている方もいると思う。無料クーポン券のあり方については国でも議論が始まっており、その動向を注視しながら、利用率を上げられるよう考えていきたい。
- 大山委員 4ページの二次医療圏別死亡率について、常に北秋田医療圏が高いなどの傾向があれば対策を考える必要がある。何か経年の傾向はあるのか。
- 事務局 令和元年は北秋田医療圏は5.7と最も低く、湯沢・雄勝医療圏が22.6と最も高かった。人口の少ない医療圏では、年ごとの変動が大きいのが実態である。県全体では、令和元年は13.9であり、0.4ポイント増えた状況である。

議事（２）協議事項①秋田県の精度管理評価指導基準及び改善指導について

- 事務局 （資料２に基づき説明）
- 部会長 市町村のチェックリストの遵守状況は「C以下」、精検受診率は「70%未満」を指導対象とすることについて異論はあるか。＜異論なし＞
- 部会長 精検受診率について、昨年度も今年度も指導対象となるのは由利本荘市のみである。昨年度、改善報告をいただいたにもかかわらず今年度も指導対象となることについてどのように考えるか。
- 事務局 ７ページに記載している昨年度調査の改善報告は、平成30年度の精検受診率が70%未満であった市町村からいただいたものである。今回お示しした精検受診率は、令和元年度速報値であり、昨年度調査で改善報告いただいた内容が数値としてあらわれるにはもう少し時間がかかると考えている。
- 部会長 由利本荘市には、前回も指導対象となったことを申し添えて指導していただければと思う。
- 部会長 他に意見等はあるか。＜意見等なし＞
- 部会長 市町村のチェックリストの遵守状況は「C以下」、精検受診率は「70%未満」を指導対象とすることについて、本部会で承認する。
- 部会長 続いて、検診機関の指導基準について、事務局案に対する意見等はあるか。
- 大山委員 事務局案のとおり、例年どおりの基準でよろしいかと思う。＜他委員からも異論なし＞
- 部会長 それでは、事務局案のと通りの指導基準とする。

議事（２）協議事項②秋田県子宮頸がん検診実施要領の一部改正について

- 事務局 （資料３に基づき説明）
- 事業団 （様式例5改正案について説明）
- 部会長 本文の改正は、国の指針改正に伴う改正とのことだが、70歳以上も対象になるということによいか。
- 事務局 よい。
- 部会長 様式例5の改正について、大山委員いかがか。
- 大山委員 チェック項目の方がしっかりと統計をとれるためよいと思う。チェック項目のない病変については手書きで記載いただく依頼が必要かと思う。
- 部会長 手書きで記載する欄を設けた方がよいか。
- 事業団 組織検査内の「その他疾患」や「その他のがん」の括弧内に記載いただくことができるが、より明確にした方がよいという意見があれば提案いただきたい。

- 田中委員 その2か所では混乱する可能性がある。可能であれば、「その他のがん」という項目を明確に設けた方がよいと思う。例えば、改正案では子宮頸部の「その他のがん」を書く欄がないが、あった方がよいのではないかな。
- 事業団 子宮頸部の欄に「その他のがん」を加えることはできると思う。
- 部会長 医師が記載した内容は、データとしてまとめられるのか。
- 事業団 細かい内容については、データ入力が不可能なものもある。今回の改正案は、統計表の分類に基づいて作成したものである。
- 部会長 医師が特記事項として記載したことは反映されないということか。
- 事業団 統計表には反映されないと思う。
- 部会長 統計に反映されないのは仕方のないことなのか。
- 大山委員 できるだけ「その他」の欄を設け、見直す際に確認できる項目を統計上も作っていただければ助かると思う。
- 部会長 この様式はどのように使われているのか。
- 事業団 この様式を集計したものを子宮がん検診中央委員会で提示している。
- 部会長 その資料の中に症例数や割合がまとめられていることは承知しているが、「その他」の詳細については、医師が記載しても提示いただけないのか。
- 事業団 そうである。「その他」の数としてまとめられるだけである。
- 部会長 この様式には詳細を記載しても意味がないということか。また、この様式は事業団に提出されるものか。
- 事業団 そうである。
- 部会長 委員から意見等はあるか。
- 南條委員 今回の改正案では、組織検査の欄がチェック項目に変更されているが、細胞診については今後も記載方式のままということか。
- 事業団 スペースの都合もあり、全てチェック項目で載せると煩雑になる。精密検査結果は組織診断を基準に分類していることから、組織診断を明確にすることに重点を置いて今回の改正案を作成した。
- 南條委員 もう一つ質問だが、現在はLSILやHSIL、CINといった略語も使われているが、今回の改正案の表記は、今後も日本の検診事業では使われ続けていくものと捉えてよいのか。
- 事業団 文言についても部会で決めていただければ変更することはできる。
- 田中委員 現在の日本では改正案の表記が主流であり、LSILやHSILといった略語はまだ馴染んでいないので、この表記でよいと思う。
- 部会長 他に意見等はあるか。
- 高橋委員 当院では、高度異形成と上皮内がんを区別しておらず、どちらかにチェックをしなければならないとなると困るため、手書きで記載できるコメント欄を設けていただけると助かる。また、今回の改正で結果報告書を切らずに

依頼書と一緒に返送することになると、様式中程にある実施主体や氏名・住所・生年月日などの上の欄と重複する部分を削除すればスペースが空くと思う。

- 大山委員 スペースが空くと記載できる内容が増えると思う。事業団から改めて改正案を提示いただき、メール等で確認することとしてはいかがか。
- 部会長 それがよいと思う。「その他」の詳細を記載しても反映されないということだったが、医師が記載した内容についての記録を残すことの可否についても事業団で検討いただきたい。
- 部会長 紙媒体の様式は、データを入力したら破棄されるのか。
- 事業団 年度末までは保管している。
- 部会長 様式の用途に合うように、大山委員に相談しながら事業団で再度改正案を検討いただきたい。
- 事業団 承知した。
- 部会長 様式の改正については委員全員の承認が必要か。
- 事務局 委員全員に承認いただいた上で改正したいと考えている。事業団から改正案をいただいたら書面決議を行う。
- 部会長 本件については、改めて書面で協議することとする。

議事（３）その他

- 事務局 （参考資料に基づき説明）
- 大山委員 県への要望だが、HPVワクチンの積極的勧奨に係る情報提供について、対象学年に学校で説明いただくようお願いできないか。
- 事務局 御意見について教育庁と共有したい。

以上